

ESPERANZA



2001年7月、フジテレビ奇跡体験アンビリーバボーに「クローン病との闘病と再出発『愛という名の奇跡』」が放映されたことをきっかけに、奥田良子（フルート・オカリナ）と夫である奥田勝彦（ベース）で結成。活動開始から12年の2013年4月、沖縄公演を経て、全国47都道府県全て、通算1000回を超えるトーク&コンサートを達成した。コンサートでは、クローン病という病によって音楽家への道を閉ざされた挫折から、再び音楽で社会復帰を果たした自身の経験を「愛」「希望」「幸せ」「感謝」という思いを込めて伝えている。親しみ深い選曲に時の経つのを忘れ、ふたりが奏でる音の世界は「心に響く愛の音色」と毎回評価されるほど、深みのあるアンサンブルである。また、2014年8月2日には7年ぶりのリサイタルを芦屋ルナ・ホールで開催し、大盛況のうちに終える。1st ALBUM[ESPERANZA]も好評発売中！

ESPERANZA（エスペランサ）はスペイン語で「夢・希望」という意味。

●奥田 良子（フルート&オカリナ）

大阪音楽大学卒業後、全国で演奏活動を展開。将来を期待されるが、在学中発病した厚生省指定難病「クローン病」の悪化により演奏活動を断念。2001年4月、周囲の励ましにより7年間のブランクを経て、社会復帰とともに演奏活動を再開する。その後、夫である奥田勝彦と「エスペランサ」を結成し、全国各地でトークコンサートを展開。そのメッセージは聴く人の心に響くと高く評価されている。難病と挫折を乗り越えての演奏活動は、様々な新聞や雑誌、ドキュメンタリー番組などで取り上げられている。

●奥田勝彦（ベース&アレンジ）

1973年よりプロとして活動始める。その後、優れたテクニックと音楽的センスが評価され、スタジオミュージシャンとして活躍。また、坂本スミ子氏、尾崎紀世彦氏をはじめ、多くの歌手のサポートをてがける中、やしきたかじん氏のバックバンドのリーダーを10年間勤める。様々なジャンルを巧みに演奏できる技術と独特の響きある音色は、エスペランサのステージで惜しみなく披露され、聞く人の心を捉えている。現在は、難病を持つ妻を心身ともに支え、夢の実現のサポートをしている。「エスペランサ」のアレンジ、プロデュースを担う。

いつも、ありがとう

夫婦珍道中フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/esperanzablog>
トーク&コンサートで全国を飛び回る合間に、ご当地グルメや地元の方達のお勧めスポットを巡る様子を楽しい写真とコメントで奥田良子（フルート・オカリナ）がレポートしています。トーク&コンサートでの軽快なトークと同様に楽しいコラムが人気。自慢のシェフ（奥田勝彦：ベース）のプロ級手料理や愛息（アツシ：ミニチュアシュナウザー雄）との生活も人気のコーナーです。

エスペランサオフィシャルサイト

<http://www.esperanza-okuda.com/>
全国を回るトーク&コンサートの講演では、クローン病をはじめとした難病、障害を持つ方たちへの理解と支援を呼びかけ「人権」「福祉」「男女共同参画」、学校講演では子供たちへ「夢を持つことの大切さ」などを語っている。同様の辛さを知る人たちに夢と希望、勇気を持ってもらいたいと、過去の自身の体験や今までに出会った方々への感謝をオフィシャルブログで綴っています。



<http://www.esperanza-okuda.com/>